

初等部

「音楽科の取り組み～コロナ禍の音楽鑑賞～」

堀内響子

I. はじめに

2020年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため、学校生活においても多大な影響がありました。振り返りをしている今現在(2021年度1学期)も、まだまだ予断を許さない状況は続いています。

そのような中であって、音楽の授業は根幹から見直すことにしました。飛沫防止のために、歌うことや、鍵盤ハーモニカやリコーダー等の吹く楽器の練習は、控えることになりました。歌唱や合奏などの実技を主軸に据えている音楽科にとっては、活動そのものができない事態となりました。感染者が減ってきた時期には小声で歌ったり、1人ずつ、列ごとに楽器を吹いたりはしましたが、以前のように気持ちよく表現活動することは難しい現実がありました。

自由学園初等部のガイドラインに照らし合わせ、公立小学校の動向を確認し、私立小学校、学園内の音楽の先生方とも情報を共有しながら、できることを進めました。写譜やリズム等の音楽ノートやプリントも多用し、筆記や音楽鑑賞を行いました。これらは普段の授業でも扱っている内容ですが、実技の時間を確保するために、じっくり時間をとることができなかった勉強でした。中でも、授業後半の時間を使い、音楽鑑賞に重きを置いて授業を組み立てることにしました。

今回は、その音楽鑑賞について記します。

II. 指導上の留意点と取り組み

まず、音楽鑑賞によって子ども達に穏やかで心休まる時間を過ごしてもらいたいと思いました。コロナ禍でたくさんのことを我慢している中で、みんなでよい音楽を聴いて、明るく前向きな気持ちになってもらいたいと考えました。

どの曲にも、作曲家の思いが込められています。曲が作られた経緯や歴史的な背景、楽器編成などを知ることで、より深い学びが得られます。ただ単に音楽を聴く時間にはしたくなかったので、年

齢に合わせて分かりやすく説明や解説をした上で鑑賞することにしました。純粋に音源だけで聴くこともしましたが、映像と一緒に鑑賞することで入りやすくなる曲もあります。オペラ、バレエ、ミュージカル、フィギュアスケートなどの総合的な舞台芸術やスポーツでも、音楽はとても重要な要素です。それぞれの物語の中で音楽の果たす役割は大きく、感動を与えてくれます。実際に鑑賞しながら、感情移入して涙を流したり、驚いたり、笑ったりなど子ども達のたくさんの反応が見られました。今日はどんな曲を聴くのかと楽しみにしている人が多く、授業後には直接感想を伝えてくれました。また、こんな曲が聴きたいといったリクエストもよくもらいました。音楽鑑賞ノートを読んでみると、同じ曲でも感じ方は人によって様々で、子ども達の感性や素直さ、発想力には毎回驚かされます。

特に気をつけた指導上の留意点は、音楽を聴いて子ども達が感じたことを否定せずに認め合うことです。感想には正解があるわけではないので、それぞれの考えや思いを尊重することを心がけました。また、情報量も適度に伝えることで、押しつけや詰め込みにならないように配慮しました。

同じ作曲家であっても曲によってまるで違う音楽が生まれること、同じ曲であっても演奏家によって別の表現法やアプローチがあることに気づいた人が多くいました。また、好みの音楽でなかった場合にも、自分の知らない世界観にふれることでの新たな気づきがあったようです。生の楽器の音も聴いてほしいと考え、実際に音楽教師でチェロとピアノでコンサートをした日もありました。

基本的には教科書に載っている鑑賞曲の教材(クラシック曲)を中心に選曲しましたが、学年に合わせて、人形劇、童謡、民謡、映画音楽、世界の国歌、民族音楽、ジャズ、ロックなど、ジャンルにとらわれずに幅広く鑑賞できました。



音楽鑑賞ノートに毎回記録していきました。
日付、曲名、作曲家、説明と感想を書きました。



音楽教師の演奏を聴く5年生

Ⅲ. 音楽鑑賞ノートの感想から抜粋

・「こうていえんぶきょく (カイザーワルツ)」

ヨハン=シュトラウスⅡ世

がまんして、はやくワルツをおどりたいな、とおもっていて、でもさいごに、がまんできなさそうでした。あと、はるになっておどっているようでした。(1年生)

・「のぼら」シューベルト

ウィーンしょうねんがっしょうだんと、もう目のピアニストのかけはしさんのえんそう。きれいなうたごえで、ピアノのえんそうもすてきでした。

(1年生)

・「せかいの国歌」

わたしは、ドイツの国の国歌がすきです。リズムがいいからです。またきけるといいです。(2年生)

・「四季」より冬 ヴィヴァルディ

ゆきがふっていて、さむそうなかんじがする。後半は、クリスマスのサンタさんが来そう、と思っていたら、サンタさんを見てしまった気がした。

(2年生)

・「バラード1番」ショパン

少し暗い感じの曲でした。音が下りていくところが一番気に入りました。ピアノでとてもむずかしそうな曲でした。(3年生)

・「カノン」パッヘルベル

すごく立派な曲でした。とっても好きな曲です。同じことが何度もくり返されていました。(3年生)

・「水上の音楽」ヘンデル

とても華やかな曲。聴くのは3回目だけど、何度聴いてもいい曲だなと思った。曲の説明を聞いて、本当に曲名と同じだなと思った。(4年生)

・「カヴァレリア・ルススティカーナ」より間奏曲
マスカーニ

ゆったりとした曲で、子守歌みたいだった。少し悲しい感じもする。ぼくも聴いたことがあり、いい曲だと思う。(4年生)

・「レイオブウォーター」菅野よう子

奉祝曲。すっきりした曲だった。嵐がうまいなーと思って感動した。ビブラートもかかっているすてきな曲だった。(5年生)

・「ピアノ協奏曲第2番」ラフマニノフ

ソチオリンピックの浅田真央さんの演技に使われた。ピアノの音のはじめは低くこわい感じ。静かになるところで音が高くなっていく。音の強弱の差がすごい。浅田真央さんの力強い演技もすばらしかった。(5年生)

・「オーケストラの誕生」DVDから

舞台の名前の「オーケストラ」がオーケストラになったとはおどろいた。モーツァルトが17才で作った曲が出てきて、17才でこんな音楽が作れてすごいことだなと思った。オーケストラの楽器にも、ソプラノやアルトのような役割があると知った。(6年生)

・「テルミン」世界初の電子楽器

1920年にロシアの物理学者テルミンによって作られた。本当に楽器にさわらないで音を出しておどろいた。どうやって作ったのか分からないけれど、むずかしそうだなと思った。(6年生)



音楽鑑賞中の様子（上：1年生、下：3年生）

IV. 保護者の方々からのコメント

音楽鑑賞ノートは学期ごとに持ち帰り、ご家庭でも鑑賞した曲について話題にさせていただいたようです。保護者の方々からも多くのあたたかいコメントをいただきました。（一部抜粋あり）

・いろいろな制約のある中、すてきな曲を鑑賞することで娘も音楽を楽しんでいます。「クインテット」は赤ちゃんの頃からDVDで観て親しんできたので、学校でも観ることができて喜んでいました。童謡や唱歌、わらべうたなども好きなので、これからも授業の中でいろいろ教えていただけたらと思います。（1年生の保護者）

・たびたび「こんな曲、あんな曲を聴いたよ」と楽しそうに報告をしてくれ、こちらも一緒に聴いた気持ちになり、嬉しかったです。ラヴェルの「ボレロ」は、母が少し踊ってみせると、リズムを覚えていて歌ったりと楽しみました。コロナ禍で不安な中、我が家では音楽が支えて、救いです。こ

れからもたくさんの音楽に出会って欲しいと思います。（2年生の保護者）

・2学期が終わって帰宅すると、何よりもまず「この黄色いノートを見てほしい！お母さん、感想書いてね！」と言われました。そして、1曲ずつどんな風だったのかを色々話してくれました。映像をあわせて見せてくださっているからか、印象に残る曲が多いようでした。音楽を自分のものにするのは簡単ではないけれど、本当に人生を豊かにし、自分を支えてくれ、世界を広げてくれるものだと思っているので、息子にとっての音楽がそのような存在になってくれることを親として願っております。（3年生の保護者）

・音楽かんしょうできいた『カノン』。気に入って感想にも「ピアノでひいてみたいです。」と書いていましたが、ピアノの先生にひいてみたいと希望を伝えて、本当にひくことになりましたね。カノンを聴いてすてきなと思ったように、自分のピアノを聴いていい曲だなと思ってもらえるように、ひけるといいですね。（4年生の保護者）

・息子が生まれる前に、ベートーベンの「第九」を池袋の東京芸術劇場で聴いた時に、お腹の中で元気に動いていたことが思い出されました。今はコロナでなかなかオーケストラや合唱を聴きに行くことはできませんが、また家族で行ける日が早く来るといいですね。（5年生の保護者）

・6月から2学期終了までの音楽鑑賞ノートを子供が全部読んでくれました。クラシックだけでなく映画音楽や雅楽も混ざっていて、バリエーションがあって楽しそうだなと思いました。話をしている、自分でもそうなのですが、有名な曲でも1曲フルではなく、サビやよく使われる部分のみしかよくわかっていないということを改めて思いました。落ち着きのない時代、意識して一曲じっくりと音楽に耳を傾ける余裕を心に持ちたいものだなと感じました。（6年生の保護者）

V. 終わりに

子どもたちにはこれからも、様々な音楽体験によって豊かな心を育んでもらいたいと願います。そして、やはり一日も早く元の生活に戻って、これまでのように楽しく思いっきり表現活動をさせてあげたいと強く思います。